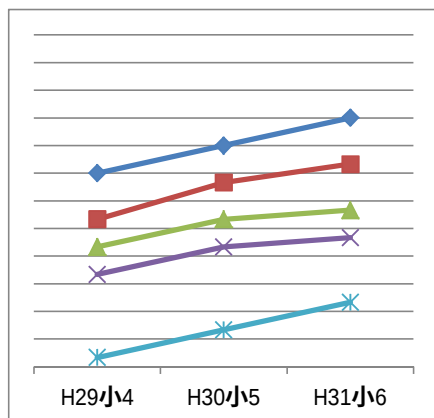


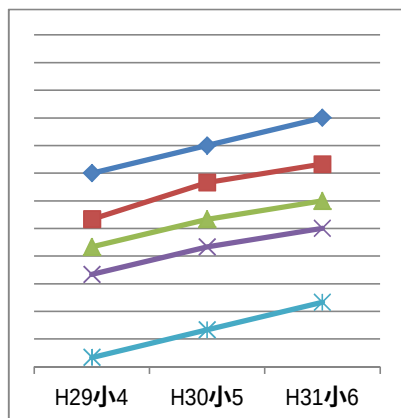
- ① 平成30年度から31年度の「学力の伸び」に着目する。
⇒ 伸び幅が県平均よりも大きい／小さい。
- ② 平成31年度の学年ごとの学力に着目する。
⇒ 学力が県平均を上回っている／下回っている。
- ※ ①、②のような視点を踏まえ、さらに他の帳票を合わせ見ることで、課題となる領域や指導改善の方法などを検討する。

4 学力の伸びの状況

草加市



埼玉県



- ◆ → 最大値（最も学力が高い児童生徒が属する学力レベル）
- → 75%値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%に当たる児童生徒が属する学力レベル）
- ▲ → 中央値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%に当たる児童生徒が属する学力レベル）
- × → 25%値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%に当たる児童生徒が属する学力レベル）
- * → 最小値（最も学力が低い児童生徒が属する学力レベル）

・指導が必要な項目

【数量や図形についての技能】 短答式 平均正答率 草加市 52.5 埼玉県 59.5 差 -7.0 無解答率 7.5

問題の概要 三角形の面積を求める

出題の趣旨 情報過多の三角形の面積を求めることができる

【数量や図形についての技能】 選択式 平均正答率 草加市 34.3 埼玉県 37.6 差 -3.3 無解答率 8.3

問題の概要 帯グラフを読み取り、説明として適切なものを選ぶ

出題の趣旨 帯グラフを読み取ることができる

「数量や図形についての技能」に関する指導について

分析

- ・ 情報過多の三角形の面積を求めることについて、県の平均正答率より低い。

指導のポイント

- ・ 三角形の公式へと導く学習では、等積変形といった図形の操作活動を通して、もとの図形のどこの長さに着目すると面積を求めることができるのか振り返って考えさせる。
- ・ 指導の際は、辺の長さを示さずに図形を提示して、面積を求めるためにどの部分の長さが必要かを考える活動を取り入れたり、情報過多の場面を提示し、面積を求めるために必要な情報を取り出す活動を取り入れたりするなど、問題提示を工夫するようにする。

分析

- ・ 帯グラフを読み取り、説明として適切なものを選ぶことについて、県の平均正答率より低い。

指導のポイント

- ・ 複数のデータについて項目を比較するときに、各帯グラフの合計が異なっていると、割合が小さくなっていても実際のデータとしては大きいなど、見た目では実際のデータを比較ができないことがある。身近な事象を用いてグラフをかく主体的な活動を設定することで、実感をもって理解できるようにする。